

令和 8 年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立両国小学校
校長名	山崎 隆

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・全ての学年、受検教科において校内平均正答率が全国平均を大きく上回る。 ・「思考・判断・表現」の観点が全教科・全学年で良好であり、5 年社会（81.5%）や 2 年算数（76.5%）など、全国平均を 10P 以上上回る成果が見られる。 ・高学年層の学力が著しく伸長しており、第 5 学年は全教科の平均正答率が前年度（74.5%）から 79.5%へと大幅に上昇した。 ・D・E 層の割合が、5 年社会（12.5P 減）、5 年理科（13.7P 減）など、高学年の主要教科で大幅に減少している。 ・	・第 3 学年の算数において、同一集団（現 3 年生）の比較で D・E 層が 5.8P 増加（12.9%→18.7%）しており、低位層への基礎定着に課題がある。 ・第 6 学年の算数「活用」の正答率（67.9%）が前年度（70.3%）を下回っており、応用力の定着が伸び悩んでいる。 ・領域別では、5 年理科において「基礎（75.7%）」に対し「活用（52.1%）」が大きく下回るなど、知識を活用して思考する場面に課題が見られる。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・6 年生における「テスト直し」の定着と改善：令和 7 年度には 72.5%と全国平均を下回り課題とされていた 6 年生の肯定率が、85.0%へと大幅に上昇し、全国平均（74.5%）を大きく上回る成果となった。全学年でも 80%を超える高い水準を維持している。 ・ICT 活用の深化：「タブレット端末等を使って話し合いが深まる」肯定率が、4 年（74.7%）、5 年（76.3%）、6 年（85.1%）と、令和 7 年度（4 年 65.4%～6 年 78.8%）	・自律的な学習計画の立案（5 年生）：5 年生において「自分で計画を立てて勉強している」肯定率が**50.0%**に留まっており、全国平均（58.8%）を下回っている。高学年における主体的な学習態度の育成が依然として大きな課題である。 ・中学年（3 年生）における探究姿勢の低下：令和 7 年度は 3 年生（70.4%）が最も高かった「不思議に思ったことを調べる」肯定率が、今年度は 57.1%へと下落し、全学年で最も低い

から全対象学年で向上しており、学年進行に伴う上昇傾向がより顕著になった。 ・高学年の探究心・思考欲求の飛躍的向上：令和 7 年度に 5 割台と低迷していた 6 年生の「考えたり頭を使ったりすることが好き」が 71.3%に急増した。また、同様に低下傾向にあった「不思議に思ったことを調べる」も、6 年生で**77.5%（前年度比+20P）**と劇的な改善が見られる。 ・ノート指導の成果：令和 7 年度に課題であった 4 年生の「ノートの工夫」肯定率（69.1%）が、82.3%へと大幅に改善され、中学年における指導の徹底が確認できる。	数値となった。中学年における知的好奇心を揺さぶる授業展開の工夫が必要である。 ・3 年生の学習スキルの定着：3 年生の「ノートの工夫」肯定率が 56.0%に留まっており、他学年（80%台）と比較して著しく低い。低学年から中学年への移行期におけるノート指導の再徹底が求められる。 ・5 年生の思考意欲：6 年生が改善した一方で、5 年生の「考えたり頭を使ったりすることが好き」は 58.8%（R7 年度比-6.2P）と低下しており、学習内容の高度化に伴う意欲低下への対策が必要である。
---	---

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・全国学力・学習状況調査（6 年）算数の「思考・判断・表現」は 62.7%（全国比+17.3P）と極めて高い。 ・多くの児童が授業に意欲的に参加しており、算数などの答えが明確な学習では積極的に発言する様子が見られる。また、ペアやグループでの話し合い活動では、自分の考えを伝えることができる児童が増えている。 ・ノートやワークシートに自分の考えを書くことができる児童が多く、自力解決や学習課題に取り組む姿勢が見られる。また、発表場面では積極的に参加しようとする児童も増えている。 ・ほとんどの児童が宿題を提出しており、家庭学習に取り組む習慣が定着している。また、保護	・自分の考えを理由や根拠を明確にしながら説明したり、友達の意見と関連付けて考えを深めたりすることに課題が見られる。話し合いが意見の交換で終わらず、対話を通して考えを広げたり深めたりできるよう指導を充実させる必要がある。 ・学習のまとめを自分の言葉で表現することや、文章を論理的に構成して書くことを苦手とする児童が見られる。語彙力や既習漢字の活用、ノート整理の力を高めながら、書く活動の充実を図る必要がある。 ・家庭学習において、丸付けや間違い直しまで十分に行えていない児童や、課題を作業的に

者の協力を得ながら基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることができている。	こなしている児童が見られる。自分の課題に応じて学習内容を振り返り、丁寧に学習に取り組む姿勢や自己調整的に学ぶ力を育成していく必要がある。
--------------------------------------	--

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 継続する取組

- ・「テストの解き直し」の質的向上： 高い肯定率を背景に、単なる正誤確認に留まらず、高学年では誤答原因を自己分析させ、次への学習計画に繋げる指導を徹底する。
- ・ICT を活用した対話的な学びの深化： タブレット端末を活用した意見共有を継続し、本校の強みである「思考・判断・表現」の更なる伸長と、記述力の強化を図る。

(2) 改善する取組

- ・高学年における「活用」領域の指導改善： 6 年算数や 5 年理科の活用力の課題を改善するため、単問の習得だけでなく、複数の資料を読み解き関連付ける授業展開を意図的に設定する。
- ・主体的・計画的な学習態度の育成： ふりかえりシート等を活用し、自らの課題に応じた学習を自分で選択・実行できるような支援を強化する。

(3) 新たに重点化する取組

- ・算数における基礎・基本の再徹底： D・E 層が増加した実態を踏まえ、少人数指導や「ピンポイント学習」の対象を精査し、個別最適なフォローアップを組織的に実施する。
- ・中学年における探究的な学習の推進： 児童の問いを大切にしたい問題解決型学習や、図書・ICT を用いた調査活動を重点化する。

3 「令和 9 年度 墨田区学習状況調査」の目標

- ・基礎学力の定着と低位層の削減。第 4 学年（現 3 年）算数の D・E 層を 15%以下に低減させるとともに、全学年でノート指導を徹底し学習スキルの向上を図る。
- ・高学年における活用領域の伸長。算数・理科の「活用」正答率を全国平均比 + 10 ポイント以上で維持し、特に理科における基礎と活用の正答率差を解消する。
- ・主体的・探究的な学習態度の育成。5 年生の「計画的な学習」肯定率を 60%以上、3・4 年生の「探究心」に関する肯定率を 70%以上に引き上げ、自律して学ぶ姿勢を育む。